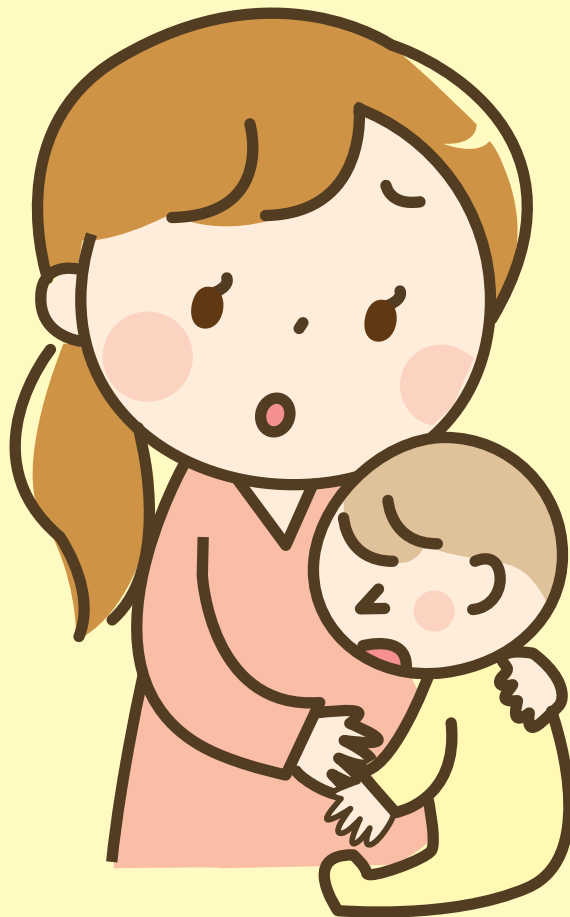


## おなかが痛いとき(腹痛)

食欲もあり、機嫌がよく、嘔吐もないときは急を要しません。

便秘ではありませんか？



腹痛

## おなかが痛いとき(腹痛)

- 腹痛が2、3日続いていても、嘔吐もなく、食欲もあり元気である
- 数日便が出ていない。おへその周囲を痛がる。ウンチが出たら痛みが軽くなり元気になってきた
- 腹痛がすぐに軽減し、がまんができる程度となる
- ウンチの表面に少し血がつく程度、もしくはティッシュに少し血がつく程度



急を要することはありません。一晩くらいは家で様子を見て、診療時間が始まるのを待ってから受診しましょう。

- 様子を見てみると、だんだん腹痛が強くなる
- おなかをさわると嫌がったり、痛がったりする
- おなかがパンパンに張っている
- ウンチの中に血がたくさん混じっている。
- おなかを激しく何かにつづけたことがある
- 血やコーヒーの残りかすのようなものを吐いた
- 色が悪く、ぐったりしているのが続く
- お腹をかがめて歩く、痛くて歩けない
- 赤ちゃんの場合で、激しく泣いたり泣き止んだりを繰り返す



小児救急対応医療機関を受診

腹痛

### 医師へ伝えてほしいこと

- 腹痛の程度、時間は?食事との関連は?
- ウンチは毎日出ているか?いつからウンチが出ていないか?
- 吐き気や嘔吐、下痢、発熱など他の症状があるか?
- 食事がとれない?機嫌が悪い?元気がない?



## おなかが痛いときの家での対応と注意点

- ウンチやおしっこが出た時は臭いや色を確認してください。
- 赤ちゃんが繰り返し泣くときは、おなかが痛いためのこともあります。嘔吐や便にたくさん血が混じっていないかをよく観察してください。
- 発熱や嘔吐の前ぶれとして、腹痛を訴えることもあります。症状の変化に注意しましょう。
- 咳き込んでいる時は、お腹の筋肉痛があり、腹痛を訴えることもあります。
- おうちの人で同じ腹痛を訴える人はいませんか?同じものを食べて、同じ症状の人がいれば食中毒も考えられます。

腹痛



### 看護のポイント

- ウンチが出ると痛みがおさまることがよくあります。トイレへ行かせてみてください。経験があれば、家で浣腸してみてもかまいません(市販の浣腸液で10ml~30ml:目安は1~2ml/kg)。浣腸でウンチが出れば、それだけで腹痛がおさまることもよくあります。



## けいれん(ひきつけ)をおこしたとき

こどもの5~10%くらいはけいれんを経験するといわれています。5~10分以内のけいれんで命にかかわることはほとんどありません。あわてずに冷静に対応しましょう。

熱が上昇するときに悪寒戦慄といって、体ががたがた震えることがあります、よくけいれんと間違われます。意識があるかどうかをみてください。意識があれば、まずけいれんの心配はありません。



けいれん

# けいれん(ひきつけ)をおこしたとき

- 数分でおさまった「熱性けいれん」や「てんかん」の場合、今まで経験があり、明らかに意識が戻っており、お話しできたり、顔色が普通に戻っている



一晩家で様子を見て診療時間が始まるのを待ってから受診してもかまいません。

- けいれんかどうかの判断ができない
- 生まれて初めてけいれんを起こした
- 自然にとまったが5分以上続いた
- 半日に2回以上起こした
- 左右対称性でないけいれん
- 最近、頭を打ったことがある
- 1歳未満で起こした



小児救急対応医療機関を受診

- けいれんがおさまったように見えても、呼びかけや、痛みなどの刺激に反応しない
- 顔色が悪いのが続いたり、唇の色が青紫色のまま続いている
- 意識が戻らない、戻っているかどうか判断できない
- 短いけいれんでも、繰り返しけいれんをする
- けいれんが5～10分以上続いている



救急車を呼ぶ

けいれん

## 医師へ伝えてほしいこと



- けいれんが起こる直前までの状態は?
- いつから、どんなけいれんが、どのくらい続いたか?(けいれんの続いた時間、手足の動き、眼球の動き、顔色、くちびるの色など)
- 体温が何度あったか?
- 他の症状(嘔吐、下痢、頭痛など)があるか?

## けいれん(ひきつけ)のときの 家での対応と注意点

- けいれんに気づいたとき、あわてて抱き上げたり、ほっぺたをたたいたり、揺すったり、大声で名前を呼んだりして**刺激するのは逆効果**となり、けいれんを長引かせると言われていています。
- けいれんの続いた時間、手足の動き、眼球の動き、顔色、くちびるの色などを観察して、医療機関を受診する時にけいれんの様子を医師に告げてください。



### 看護のポイント

- 静かな部屋であお向けに寝かせたら、顔は横向けにし、呼吸しやすいように衣服をゆるめます。**吐くことがある**ので、そのときは体を横向きにするか、うつぶせにして吐かせます(最初から、体を横向きにしてもかまいません)。
- 口を塞いで窒息させたり、口の中を傷付けたりする危険がありますので、絶対に**口の中に物(スプーンや割り箸など)や指を入れたり**はしないでください。舌を噛むことがまれにありますが心配ありません。
- 熱性けいれんを起こしたことがある子どもの解熱剤の使い方については、日頃からかかりつけ医と相談しておきましょう。必ず使用しないといけないというものではありません。



## けいれん(ひきつけ)とは



急に体の一部や全身をがくがくさせたり、意識がなくなって眼の焦点が合わなくなり(上方を向いたりすることが多い)、くちびるの色がなくなったり(紫色になる)、からだが硬く突っ張るようになること。**多くの場合、5分以内にはおさまります**が、それ以上続くこともあります。大部分は熱性けいれんです。

## 熱性けいれんとは



発熱時に(上記のような)けいれんが起こるもので、1～5歳の幼児ではよく見られ、ほとんどは自然に治ります。通常、5分以内にけいれんはおさまり、けいれん後にしばらく眠ります。通常、麻痺や意識障害などは残りません。短いものであれば、必ずしも急を要するものではありませんが、受診される時は、けいれんの様子をよく観察し、医師に伝えてください。けいれんが**短くても、短時間のうちに何度も繰り返しけいれんが起こる場合は救急車を呼んでください**。

けいれん